

## 兵庫県立社高等学校第七十五回卒業証書授与式 校長式辞

厳しい寒さだった冬も終わりを告げ、暖かな日差しが感じられる今日の良き日に、PTA 会長森岡伸寿様はじめ同窓会 PTA の皆様のご臨席、卒業生のご家族の皆様の列席のもと、兵庫県立社高等学校第75回卒業式を執り行うことができますことは、私どもにとってこの上ない喜びであり、誠に嬉しく存じますとともに本校を代表し、深く感謝申し上げます。

先ほど卒業証書を授与しました第75回生237名の皆さん。ご卒業おめでとうございます。職員一同、心よりお祝い申し上げます。

そしてご家族の皆様、本日、お子様がご卒業を迎えられますことを職員一同お喜び申し上げます。誠にありがとうございます。本校入学以来3年間、新型コロナウイルス感染と向き合う中で、生徒と共に過ごされた日々を思い出し、その成長を実感されていることと存じます。またその3年間、本校教育活動にご理解並びにご協力賜りましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

皆さんは入学式直後に臨時休校となり、2ヶ月遅れで高校生活をスタートさせました。オリエンテーション等が十分にとれずいきなり授業からスタートし、駆け足のように1学期を終え、高校生らしい生活というよりは制限ばかりがかかる生活の連続でした。部活動の試合やコンクール等も中止や延期が相次ぎ、面談をしても不安げな様子や諦めに近い発言もあったように思います。1年生のスタートは本当に心配でした。2年生になっても新型コロナウイルスの状況は大きくは変わらず、何度も制限が加えられましたが、させていただける事のありがたさ、当たり前前の生活のありがたさを感じ始めてからは姿勢も前向きになって、心配な部分も少しずつ解消していったように思います。そして迎えた3年生では、蓄えた力を一気に発揮してくれました。

まず、野球部が夏の兵庫県大会を始めて制し、甲子園への出場を果たしました。県大会決勝での粘り強さは多くの方から賞賛され、また多くの方に感動を与えてくれました。その伏線には、前年の秋季大会で優勝しながら近畿大会1回戦で敗戦し、選抜出場を逃したこと、さらにはその前の夏の県大会準決勝で関学に逆転負けを喫したことなど悔しい思いをしてきたことで培われた力と今までの卒業生の悔しい経験から得たものを自分たちの糧とし、自らの成長をしっかりと考え取組を進めた成果があったと思います。甲子園という舞台は私たちにとっても夢に見た舞台でした。4万人近い観客の声援が本校に注がれているあの感動はみんなの胸に刻まれたことでしょう。さらに秋の県大会でも3位に入り2年連続の近畿大会へコマを進め、初戦突破したことが評価され、選抜大会に出場できる事になり、さらに新しい世界を見せてくれています。

また陸上競技部3年山口君が、念願であった全国大会円盤投優勝、ハンマー投2位の好成績、2年藤本君の三段跳5位入賞とあわせてのフィールド優勝は社高校陸上部の歴史に新たな1ページを刻みました。その後の国体では山口君がハンマー投で日本高校新記録、藤本君は U18 日本選手権で三段跳優勝と破竹の勢いを続け、大いなる飛躍を遂げました。

さらに柔道部の横山さんが全国大会出場、国体出場と力を発揮してくれるなど、活躍は他の部にも波及し、男子バレー部は新人大会で27年ぶりの優勝、ソフトボール部の県新人ベスト4や女子バレー部・男女バドミントン部、水泳部の近畿大会出場に繋がりました。他にも来年度近畿大会出場が見えてきた部も多数あり、学校全体に活

躍の輪が広がり、多くの人が喜ぶ結果となりました。

文化部では美術部寺越さんが2年連続全国総文出場を果たし、生活科学科では4年連続近畿経済産業局長賞受賞を皮切りに多くの発表の場で受賞する機会をえました。このように本校の生徒活動の一端を多くの方々に知っていただくことができたように思います。

また、文化発表会は1年の時に開催できなかつたことを踏まえ、飲食関係を除いてのステージ発表において、学校全体での一体感を味わうことができました。体育大会は2年の時に実施できなかつたのですが、3年の時には3年ぶりにご家族の方にも見ていただくなど応援合戦、体育科演技などフルバージョンでの実施となり、久しぶりに学校での生徒の姿を見ていただくことができ、本当に良かったです。行事で私が一番印象的だったのは、修学旅行の食事です。あの食事の量と皆さんの笑顔は、我慢の連続からしばし解放された瞬間であり、本来の生徒の姿を見ることができたような気がしました。改めて学校行事の良さを感じたときでもありました。

体育科、生活科学科、看護医療類型それぞれの実習はすべてできたわけではありません。それでもできなかったからこそできたこと、分かったこともあると思います。それぞれの学科類型での課題研究や普通科の探究学習では地域の方々や関係各所でお世話になり、進路実現に役立てることができました。この時代を共に生きたものとして当たり前のことのできる事への感謝の気持ち、家族や地域を含め自分たちに関わってくれたの方々への感謝の気持ちを持つことができたと思います。それらは皆さんがこれからの時代を生きていく上で礎となるものです。自分の頑張りと共に大事にしていってください。

そんな皆さんに「シャネル」というブランドを立ち上げた「ココ・シャネル」の言葉を贈ります。それは「20歳の顔は自然から授かったもの、30歳の顔は自分の生き様、だけど50歳の顔にはあなたの価値がにじみ出る」です。20歳までは自分が持っているものが表情に表れ、30歳では自分の生き方が顔に、そしてその経験の積み重ねが50歳の顔に表れるということです。今日という日がスタートとなって今までの経験から自分の持ち味、長所を活かし、どのように生きていくかを考え、将来を見据えた生活、仕事をする中で、その考えたことや自分の生きていく上での柱となるもの、大切にしていることなどが50歳になった頃には表情や仕草、振る舞いに現れるということだと思います。18歳の皆さんが50歳の自分を想像はできないと思いますが、人生振り返ったときに良かったと思えるような生き方をしてください。良いときばかりでなく、しんどいとき、苦しいとき、辛いときもあるかと思いますが、そんな時は是非高校時代、制限がかかって思うような生活ができない中、感じたことや達成できたことを思いだし、元気を出して前を向ってください。

皆さんの健康と今後ますますのご活躍を職員一同祈念申し上げ、式辞とさせていただきます。

令和五年二月二十八日  
兵庫県立社高等学校  
校長 若浦直樹